

第3章 身近なチョウを調べてみよう

庭のチョウ類調査に参加しませんか？

庭や公園で見られるさまざまなチョウ。名前が分かれば出会いの楽しみが増え、継続して調べると自然環境の変化を知ることができます。ここでは調査要領をまとめました。

初心者でも大丈夫です

この調査では、身近なチョウを通して知ることができる自然環境の変化を、多くの目で継続して明らかにしていこうとしています。普段、庭や身近な緑地で見られるチョウは、20種類程度です。このガイドブックや図鑑などを参考にすれば、最初はわからなくても、すぐにある程度は見分けがつくようになります。

調査対象は、庭と小規模な緑地です。自宅の庭またはベランダ、校庭のほか、住宅地周辺の公園・神社や寺院などが対象になります。

どなたでも参加できます。身近なチョウを通して自然環境を知る輪に参加しませんか？

なぜチョウを調べるの？

鳥や植物、昆虫など、自然界にはさまざまな生きものがすんでいます。生きもののすべてを観察しようとしても、数が多すぎてつかみどころがありませんが、チョウのように名前が調べやすく、また自然環境の変化に敏感な生きものに注目すると、自然環境の変化を、確かなものとして知ることができます。

チョウの中には、近年分布が大きく変わっているものもあります。多くのチョウが減少している一方で、少数ですが、分布を広げているチョウも見られます。ナガサキアゲハやムラサキツバメ、ツマグロヒョウモンなどは、温暖な西日本に分布するチョウで、関東地方ではかつては見られませんでした。2000年頃より分布を拡大し、今では普通に見られるようになりました。これは気候の温暖化が一因であると考えられ、チョウの変化から、自然環境の変化が読み取れる実例となっています。さらに、チョウは幼虫の食草がある庭で育ち、花壇のある庭で蜜を吸うなどして飛び回るため、周辺も含めた自然の現状を知ることができます。

日本チョウ類保全協会では、庭や緑地を通して、身近な自然環境の変化を全国的に明らかにするため、庭のチョウ類調査を2013年より始め、継続しています。

多くのみなさんのご参加をいただくことで、多くの情報が集まり、多くのことがわかります。

ぜひ、ご参加ください。



ナガサキアゲハ



ムラサキツバメ



ツマグロヒョウモン

専門のウェブサイト「庭のチョウ」よりご参加ください

調査への参加および調査結果の報告は、専用のウェブサイト (<https://butterfly-garden.jp/> または、「庭のチョウ」で検索) でできるようになっています。

詳細は次ページでご案内しています。



参加の流れ

画面の操作方法など、詳しくは、ウェブサイトの説明のページ「庭のチョウ類調査とは」をご覧ください。

① 参加登録（アカウントの作成）

調査対象は、自宅の庭またはベランダ、校庭のほか、住宅地周辺の公園、小規模な緑地、神社、寺院など、身近な緑地となります。

最初に、「参加登録」のページから調査者を登録します。メールアドレスを入力し、「登録する」ボタンを押すと、入力したメールアドレスにメールが届きます。そのメールに従って、ユーザー情報を登録します。

② 調査場所の情報の入力

アカウント作成後、調査場所の情報の登録を行います。

登録内容は、「調査場所」「調査頻度」「庭の面積」「庭の緑」「庭の周辺環境」などです。ウェブサイトに従って入力ください。

③ 調査の開始（詳しい調査方法は次ページをご覧ください）

調査は、3月1日～12月31日までの天候の良い日に、1～2週間に1回、30分～1時間程度チョウを観察します。

④ 調査結果の報告

調査終了後、調査結果を、ウェブサイトの「マイページ」内の「記録シート」より入力します。

チョウの個体数は、同時に確認した最大の個体数を入力することに注意します（20～21ページ）。

入力された情報は、その都度自動的にデータベース化され、ウェブサイトのメイン画面の調査結果に反映されます。また、マイページでは、ご自身の「集計シート」に月ごとに、「調査結果」に結果の概要が、自動的にまとめられます。

そのため、調査を行った都度、結果をウェブサイトからご入力いただきますよう、お願いいたします。

毎年1月31日に、年度の更新を行います。そのため、調査結果の最終報告と確認は、1月中にお願いいたします。

※入力したデータは入力後でも、マイページからいつでも修正できます。

「庭のチョウ」ウェブサイトの特徴！

このウェブサイトには、さまざまな機能がついています。

- 自身の調査結果を、いつでも見ることが可能
- 調査結果は月ごとに集計されたり、結果の概要が表示されたりと、庭のチョウの確認状況が一目でわかる
- 成虫だけではなく、幼生期の記録も可能
- 庭のチョウマップや庭のチョウランキングなど、全国的な状況をリアルタイムで表示
- 過去の調査結果も保存され、調査結果をcsv形式でダウンロードすることもできるので、ご自身の庭のチョウの記録ノートとして利用できる



調査方法

【調査場所】

- 自宅の庭またはベランダ、校庭のほか、住宅地周辺の公園、小規模な緑地、神社、寺院など。山に連なった広い森林公園などは除きます。
- ウェブサイトからの調査結果の入力は、一人1ヵ所でのみ可能。庭での調査を主体としているため、庭と公園とが調査候補となる場合には、庭での調査を優先してください。
- 複数のメールアドレスをお持ちの方は、それぞれのアドレスで参加登録をしていただき、庭と公園など、複数の場所で調査し、データを入力いただくことも可能です。

【調査時の記入】

- 調査時には、22ページの「記録用紙」をコピーするか、ウェブサイトからPDFファイルをダウンロードして、結果はまず、紙にご記入ください。その後、結果はその都度、ウェブサイトより入力します。

【調査日と期間】

- 調査日：1～2週間に1回程度の実施。
この頻度で実施できない場合→月に1回以上を目安に実施。
- 調査の実施期間：3月1日～12月31日（チョウの成虫が見られる期間）。地域や標高によってチョウの見られる時期が異なるため、チョウの見られる時期より少し長めに設定。
- 沖縄や小笠原諸島など温暖な地域では、1年中チョウが観察できますので、調査期間は1年中。
- 年間を通しての参加が基本ですが、季節の途中からの参加も可能。

【調査の時間帯】

- チョウが多く見られる時間帯に30分～1時間程度。より長時間実施していただいてもかまいません。
- 外出や帰宅の際に、短時間で思いがけないチョウを見かけた場合
→時間の項目の「短」をチェックして、ぜひ入力してください。
- 観察しやすい時間帯→春や秋なら10～12時頃。
→夏の暑い日は9～10時頃、もしくは夕方の涼しい時間帯。
- ミドリシジミ類など活動時間帯が朝夕に限られる種類については、調査時間を適宜追加。

【天候】

- 基本的に好天時に実施。曇天の場合は20℃以上を目安に実施。
- 調査開始時の天候と気温（日陰で測定）をできるだけ記入。
「快晴」：雲が空に占める割合で0～1割 「晴」：同2～8割 「曇」：同9～10割
晴の時に限り、空に占める雲の割合（%）を記入（大まかな数字でかまいません）。
- 無風または微風時に実施（風が強いとチョウが飛ばなくなるため）。

【チョウの観察時の記録方法】

- 成虫の個体数は、種類ごとに同時に見られた数を順々に記録。最終的に、同時に目撃した最大の個体数に○をつけ、その数字をウェブサイトで入力します（20～21ページに図解）。観察した個体数の合計ではないことに注意。
- 雌雄をはっきり区別できた場合は、雌雄（オス：♂、メス：♀）を区別して記入。
雌雄を無理に区別する必要はありません。
- 成虫の吸蜜植物を観察した場合は、植物名を記入。
- 庭で、卵・幼虫・蛹を観察した場合には、食草の植物名も記録。
もし個体数を数えた場合にはそれも記録する。



第3章 身近なチョウを調べてみよう

どのように調査するの？

ここでは具体的な調査結果の記入方法について、要点を絞ってご説明します。

◆調査実施のポイント

- 晴れの日（曇りの場合は20℃以上）に実施
- 風の強い日は実施しない
- 1～2週間に1回程度実施
- 時間はできるだけ30分以上
- チョウの見られる時間帯（通常、午前10～12時頃）

調査の具体例



◆今回調査した時の条件

- 日付 4月10日
- 時間 10:00～10:30 30分間
- 天候 快晴
- 温度 20℃（調査開始時）

調査
スタート



◆アゲハが1匹（個体）飛来

アゲハが
来たわ！



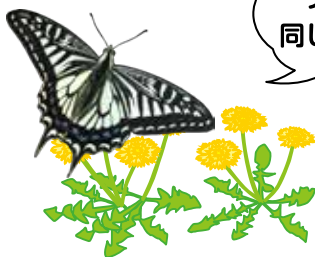
記録シートの
個体数記入欄

1	:	:
:	:	:



◆アゲハがまた1匹飛来

さっきの
チョウと
同じかしら？

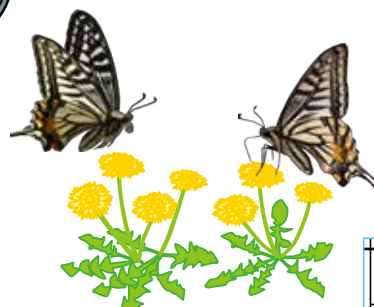


1	:	1	:
:	:	:	:



◆アゲハを2匹同時に観察

2匹
いたのね！



1	:	1	:	2
:	:	:	:	:

◆調査ポイント：「同時に見られた数を記入」

同じ種類を何回か見かけた場合、同時に見られた数をその都度記入します。数を評価するのに、前後に現れたチョウが同じ個体かどうかを区別するのは難しいためです。



◆アゲハを1匹観察



1	:	1	:	2
1	:	:	:	:



調査終了

◆今回の調査結果の記入例

庭のチョウ類調査 記録用紙

調査期間

日付	4 / 10
時間	10:00～10:30・短
天候	快晴・晴・曇（雲 %）快
温度	20℃
種名	1・1・2 1・:
1	アゲハ 初見日 タンポポで吸蜜
種名	1・2・?

「記録用紙」の記入例

※3月のデータは省略

調査開始時の気温を記入
(日陰で測定)

調査時間を記入
短時間の場合、「短」にチェック

吸蜜植物、食草、産卵、卵・幼虫・
蛹の確認、初見・終見など

調査開始時の天候を記入
晴の時には雲の割合(%)を記入

庭のチョウ類調査 記録用紙		調査期間	2014 年	3 月	～	5 月	場所	庭・その他()
日付	4 / 10	4 / 20	5 / 5	5 / 12	5 / 25			
時間	10:00～10:30・短	: ~ :・短	11:00～11:30・短	10:00～11:00・短	11:30～12:00・短			
天候	快晴・晴・曇(雲%)	快晴・晴・曇(雲30%)	快晴・晴・曇(雲%)	快晴・晴・曇(雲50%)	快晴・晴・曇(雲%)			
温度	20℃	℃	18℃	20℃	22℃			
種名	1・1・2 1・・	・・ ・・	2・・ ・・	2・1・ ・・	1・3・1 ・・			
1 アゲハ	初見日 タンポポで吸蜜		ツツジで吸蜜 サンショウへの産卵確認		幼虫2匹確認(サンショウ)			
種名	1・2・2 ・・	1♂・ ・・	1♀・1♀・ ・・	2・4・3 ・・	1・2・1 ・・			
2 ヤマトシジミ	初見日		カタバミへの産卵確認	カタバミ・シロツメクサで吸蜜	カタバミで卵と幼虫確認			
種名	・・ ・・	・・ ・・	1♂・1♂・ ・・	・・ ・・	3♂・1♀・2♂1♀ ・・			
3 ツマグロヒョウモン			すぐに飛んでいった		計3♂1♀ パンジー付近への産卵確認			
種名								

調査日ごとに、
最大の目撃個体数に丸をつける

ここがポイント！ 成虫の個体数の入力→同時に見られたもっとも多い数

成虫の調査でもっとも大事なポイントは、同じ個体を重複して数えないよう、同時に目撃した最大の個体数を入力することです。左のように、アゲハが、1 ⇒ 1 ⇒ 2 ⇒ 1と順々に観察された場合、入力する数は、一度に観察した最大の2とします。



これは、前後に現れたチョウが同じ個体かどうか分からないため、誤った数を記録することを避けるためです。もったいないように感じるかもしれませんが、ここで実際よりも多くならないよう慎重になることが、自然科学の調査のうえで重要です。

雌雄を区別できた場合には、オス(♂)、メス(♀)それぞれの数を入力します。区別できなかった場合には、?(オスメス不明)という欄に入力ください。なお、雌雄は無理に識別する必要はなく、ツマグロヒョウモンなど色が大きく異なる種、あるいは産卵しているなど、はっきりと区別できた場合以外は、すべて?で構いません。入力すると総個体数が、自動的に計算されます。

なお、雌雄が区別できた場合、数の合計が前述の説明と異なる場合がありますが、その場合は異なってもかまいません(下図参照)。



合計「1♂1♀」の2となり、最大の同時目撃個体数と同じ



合計「1♂2♀」の3となり、最大の同時目撃個体数の2よりも多いが、3個体が庭に訪れたことは確実なので3とする



合計「1♂1♀1性別不明(?)」となるが、この場合「1♂1♀」のみを入力し、「計」が2となるようにする(オスメス不明の個体は、他の個体と同じ可能性があるため)

日付 時間	／ ： ～ ： ： 雲（雲 %） 快晴・晴・曇	／ ： ～ ： ： 雲（雲 %） 快晴・晴・曇	／ ： ～ ： ： 雲（雲 %） 快晴・晴・曇	／ ： ～ ： ： 雲（雲 %） 快晴・晴・曇	／ ： ～ ： ： 雲（雲 %） 快晴・晴・曇	／ ： ～ ： ： 雲（雲 %） 快晴・晴・曇
天候	快晴・晴・曇 （雲 %）	快晴・晴・曇 （雲 %）	快晴・晴・曇 （雲 %）	快晴・晴・曇 （雲 %）	快晴・晴・曇 （雲 %）	快晴・晴・曇 （雲 %）
温度	℃	℃	℃	℃	℃	℃
1 種名	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・
2 種名	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・
3 種名	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・
4 種名	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・
5 種名	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・
6 種名	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・
7 種名	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・